



アドビシステムズ社、Adobe Acrobat 3.0 を 全世界同時発表

「様々なソフトウェアで作成された書類をそのまま電子配信可能に」
「インターネットの標準ドキュメント形式がいよいよ日本語対応に」
「Acrobat ファイルを見るための Acrobat Reader は無償で配布」

【1996年6月3日】

アドビシステムズ社 (Adobe Systems Incorporated、米国カリフォルニア州マウンテンビュー) は本日、あらゆる種類のドキュメントをオンラインで共有することを可能にするもっとも高速で簡単なソリューションのひとつである、Adobe Acrobat® 3.0 の各国語版を米国、日本そしてヨーロッパ各国で同時に発表いたしました。Adobe Acrobat 3.0 は英語はもとより日本語、中国語、韓国語など世界のより多くの言語で共通に使用できるように設計、開発されました。Adobe Acrobat によって、コンピュータユーザがワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションそしてページレイアウトなど各種ソフトウェアで作成したあらゆる種類の書類 (ドキュメント) をそのままの内容、およびデザインでインターネット、CD-ROM、企業内イントラネットや LAN、電子メールなど様々な電子メディア上で配信することが可能になります。しかも Microsoft® Windows® と Macintosh™ の異機種間でのドキュメント共有も可能にします。

米国などではすでにその表現力の豊かさと、簡便な使い勝手により、WWW 上の標準ドキュメントフォーマットとして広く使用されております。その実例はアドビシステムズ社のホームページ <http://www.adobe.com/acrobat> でご覧いただけます。

Adobe Acrobat はアドビシステムズ社が提唱し、一般に公開されている Portable Document Format (PDF) 形式のドキュメントファイルを使用いたします。ワードプロセッサをはじめとする各種ソフトウェアを使用しているユーザは、出力するプリンタまたはプリントデバイスの代わりに Acrobat Distiller® を指定したうえで、通常のプリントコマンドを実行するだけで、PDF ファイルを作成することができます。すなわちプリンタへのプリントアウトが可能なソフトウェアであればすべて PDF ファイルが作成可能であり、特別なファイル変換などのわずらわしい操作は一切不要です。

また、Acrobat® の PDF ファイルを見るためのビューワである Adobe Acrobat Reader は従来どおりアドビシステムズ社のホームページなどで無償配布される予定で、アドビシステムズ社の Electronic End User License Agreement (使用許諾契約書) を添付する限りにおいてはどなたでも無制限に再配布が可能です。

Adobe Acrobat はドキュメントのオリジナルデザインを忠実に再現するばかりでなく、ハイパーリンク、動画の再生、さらには WWW へのリンクなど電子ドキュメントならではの付加機能を付け加えることも可能です。

アドビシステムズ社のインターネットプロダクトディビジョンを担当する副社長 John Kunze (ジョンクンズ) は「Acrobat は、WWW を通じた情報のやり取りを大きく変える



ソフトウェアです。あらゆる種類のドキュメントがインターネット上で利用可能になるだけでなく、そのクオリティも格段に向上します。帳票類や紙の書類を含むあらゆる種類の文書を単一のフォーマットとアプリケーションですべてオンライン化することを可能にする Acrobat は、ビジネスユーザにとって、またデザイン、出版にたずさわる方々にとって、WWW を通じた情報発信のためのシンプルでそして完全なインターネットソリューションとなるに違いありません」と述べています。

今回発表された Adobe Acrobat 3.0 では、より豊かな内容のドキュメントを WWW 上で利用できるように Acrobat の機能を拡張します。Netscape Navigator のプラグインアーキテクチャをサポートする WWW ブラウザで直接 PDF ファイルを表示することが可能になります。さらに、Acrobat 3.0 で最適化された PDF ファイルは、それぞれのページが個別に扱われるため、データのダウンロードの効率が向上します。ページを表示するのに必要なデータだけがダウンロードされ、ページ上の個々のオブジェクトは優先順位に基づいて順番にレンダリングされます。最適化された PDF ファイルでは、テキストがまず最初にレンダリングされ、画像などの大きなオブジェクトはバックグラウンドでダウンロードして最後にレンダリングされます。

Netscape社マーケティングシニアバイスプレジデントのMike Homer(マイクホームー)氏は「Netscape Plug-in API と Adobe Acrobat 3.0 が発表されたことにより、3,000 万人を超える Netscape ユーザは PDF ファイルをまるで HTML のドキュメントをブラウズするくらい容易に見たり、検索したりダウンロードすることが可能になります。また、Netscape Navigator 用の Acrobat Plug-in はユーザが WWW 上の様々なオーサリングツールによって作成された重要なビジネスドキュメントなど、豊富な PDF の情報にアクセスすることを容易にします」と述べています。

アドビシステムズは、Acrobat 3.0 で Microsoft ActiveX™ の制御をサポートすることも発表いたしました。これによって、Microsoft Internet Explorer 3.0 をはじめとする ActiveX 技術をサポートするさまざまなアプリケーションでも PDF ファイルの表示と制御が可能になります。

Microsoft社インターネットプラットフォームアンドツールズディビジョンのBrad Chase (ブラッドチェイス)氏は「デスクトップコンピュータ上から豊かな情報に簡単にアクセスできることこそ、WWW が新しいビジネスアプリケーションのプラットフォームとして認知されるための非常に重要な要素に違いありません。アドビシステムズ社による ActiveX のサポートは、Acrobat のユーザとデベロッパーに様々な既存のソフトウェアやブラウザにおいて PDF の機能を最大限に活用することを可能にします」と述べています。

Adobe Acrobat 3.0 の主な特徴

各種ドキュメントファイルのデザインを維持したまま電子配信可能
ワードプロセッサやページレイアウトソフトウェアなどで作成されたファイルを Acrobat



Distillerを通じてPDFファイルにすることにより、テキストやグラフィックスの大きさや位置などオリジナルのドキュメントファイルのデザインを維持したままインターネットをはじめとする各種電子メディア上で配信可能です。

しかも、Microsoft Windows や Macintosh など機種ごとの文字エンコードやグラフィック形式にとらわれません。

ファイルのテキストの選択や検索が可能

PDFファイル中のテキストやグラフィックを選択して他のアプリケーションソフトウェアにコピー&ペーストしたり、ファイルから指定したテキストを検索することが可能です。

PostScript®技術にもとづいた高精彩なグラフィック表現が可能

PDFファイル中ではグラフィックの表現にPostScript技術が使われるため、いくら拡大しても荒れない線画など、WWWのHTMLで使用されているGIF形式では不可能な表現も可能にします。

Acrobat Reader を無償配布

PDFファイルを見るためのAcrobat Readerはアドビシステムズ社のホームページなどから無償で入手できるようになります。

各種圧縮技術によりネットワーク上での配信を効率化

LZW、JPEGなどの圧縮により、1/10 ~ 1/40、最大で1/100程度のファイルサイズに収められるので社内LAN やインターネットでの配信に最適です。

ワープロでも簡単にオーサリングやプレゼンテーションが可能に

PDFファイルに変換されたドキュメントはAcrobat Exchangeを使用することによりページ中のホットスポットをクリックすると別のページ、ファイルや領域などを表示するようになれるため、例えば、ワードプロセッサなどでも簡単にプレゼンテーションやオーサリングが作成できます。

マルチメディアリンク機能によりドキュメントに動画をそえて配信可能

PDFファイルにはサウンドや動画などのマルチメディア素材をリンクすることが出来るので、紙メディアでは伝え切れない内容を伝えることができます。

ポピュラーなWWWブラウザで直接表示可能

Netscape NavigatorのAPIプラグインアーキテクチャあるいはMicrosoft ActiveX制御をフルにサポートしているWWWブラウザでPDFファイルを直接表示することができます。

WWWリンク機能により電子メール、CD-ROMなどのメディアとWWWを結合

PDFファイル中にWWWなどインターネット上のリソースへのリンクを設定できるため、WWWのHTMLファイルとPDFファイルはシームレスに行き来が可能になります。

オンデマンドによるページ単位のダウンロードと優先順位に基づくレンダリング

PDFファイルはデータがページごとにオンデマンドでダウンロードされるため、WWW上



でも高速にアクセスすることができます。さらに、必要な場合には代用フォントを使ってテキストを先にレンダリングし、次にハイパーテキストリンク、イメージという優先順位に基づいて画面表示が行われます。ドキュメントに埋め込まれているフォントは一番最後にダウンロードされてレンダリングされます。

日本語を含む多くの言語を同時にサポート

Adobe Acrobat 3.0の日本語版はもとより、英語版を英語システムで使用した場合でも日本語のPDFファイルを表示することが可能です。Macintoshユーザが英語システムで英語版のAcrobat Readerで日本語のテキストを表示するにはApple® Japanese Language Kitが必要です。

発売時期

Adobe Acrobat 3.0はAcrobat Reader、Acrobat Exchange、Acrobat Distillerがひとつのパッケージに収められます。英語版はWindows 3.1とWindows NT™、Windows 95、Macintosh、PowerMacintosh™用の各バージョンが1996年8月に発売される予定で、SunOS™とSun™ Solaris®、HP-UX、AIX®をサポートするUNIX®バージョンは、1996年9月に発売される予定です。日本語版はWindows 95、Windows NT 3.51、Power Macintosh、Macintosh用が英語版出荷から2ヵ月以内に発売される予定です。いずれも日本国内での希望小売価格は改めて発表いたします。

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、Acrobat ロゴ、Acrobat Exchange、Distiller 及び PostScript は Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。Apple、Macintosh 及び Power Macintosh は米国並びにその他の国で登録された Apple Computer, Inc. の商標です。Microsoft 及び Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標であり、ActiveX、Internet Explorer 及び Windows NT は同社の商標です。Windows の正式名称は Microsoft Windows Operating System です。IBM、AIX は International Business Machines Corporation の商標です。Sun 及び SunOS は Sun Microsystems, Inc. の商標であり、Solaris は同社の登録商標です。UNIX は米国及び他の国での登録商標であり、X/Open Company, Ltd. によって独占的にライセンスされています。Navigator 及び Netscape は Netscape Communications, Inc. 商標です。その他全てのブランド名及び製品名は個々の所有者の商標です。